

(様式1) 実践事例

学校名	福島市立渡利中学校	校長名	高橋賢司		
住所	福島市渡利字平内町106番地	児童生徒数	397	学級数	14
TEL	024-523-5500	ホームページアドレス	http://www.fukushima.gr.fks.ed.jp/?page-id=480		

コミュニケーション能力を育成するための英語指導

1 少人数指導の計画等

- (1) 少人数指導のよさを生かし、生徒の実態を的確に捉え、コミュニケーション能力を育成するための指導内容・方法のあり方を追求する。
- (2) 学習形態（グループ学習）の多様な形態を工夫することにより、学び合いの中で、自分の考えを表現し、他の考えを共有する活動を通して、確かな学力を身に付けさせる。
- (3) コミュニケーション能力の向上を目指すことで、他の「聞く」「書く」「読む」能力の育成につなげ、総合的な英語力の向上を目指す。
- (4) 英語科教員とALTの役割分担を明確にするため打合せの時間を確保し、グループ活動時の指導に生かす。

2 実践の概要

より自然に近い対話をねらい、即興性に焦点をあてた実践

- ① あるトピック（わが町、福島市）について、即興的に英語で話し続けることができる能力を高める。

3人ごとのグループを作り、1分間の発表活動をする。

Speaker →ワードマップのメモを見ながら話し続ける。

Listener →相づちを打ちながら聞き、**Speaker** に話を続けさせる。可能なら、モノログの内容について質問をする。

Counter →話を聞きながら、ワードカウンターを使って **Speaker** の話す英語の語数を数える。

[3秒ルール]→英語にできない時間が3秒続くようなときは、日本語でもOKとする。

- ② 話す技能の向上を核とし、他の3技能を含めた総合的な英語力の向上を図る。3人のグループを作り、1分間の発表活動同様、4分間の対話をする。その後、互いのよかったところ、課題、疑問などを話し合わせる。その際、辞書を利用させ、英語で言えなかった言葉を調べる。

振り返りシートによかった点や課題、言えなかった単語や表現を書き、教師からフィードバックを受ける。



3 実践の成果と課題 (○成果 ●課題)

- 少人数のグループ活動を積極的に取り入れ、上記の活動を繰り返すようになってから、日々、自分の話す能力の成長を感じ、意欲的に学習に取り組むようになった。
- アイコンタクトや声量、相手を考えての質問など、改善しようとする姿が見られた。
- 現在は流暢性の向上を優先させているが、正確性の向上も含め、総合的に話す能力の向上を図っていきたい。
- グループ活動の成果を学級全体で共有させるため、少人数教育を生かした学級の良質な人間関係を育みたい。